

～『空っぽの器』友の会 発足のお祝い～

## きっかけを、あの伝説の『越冬隊友の会』秋山隊長が作って下さいました。

空っぽの器友の会 会長・シャチホコ記念代表 彦田かな子

昨年、おしゃれで知性に溢れた、秋山隊長が天に召されました。その後、東京のひばりが丘教会でお別れの会が開かれました。私も名古屋から参加させていただきました。会場は秋山さんの愛と優しさに包まれていました。

その時、目白カフェ代表の森さんと出会いました。森さんは、初対面の私に、まるでずーと前からの大切な友人のように接して下さいました。森さんとの出会いは、秋山さんからの素晴らしい贈り物だと感謝しています。

そして、青柳さんともつながらせていただき、得意の「速効性と英断」で『空っぽの器の会』の設立と相成りました。今後は、多くの方に『空っぽの器友の会』へ愛と品位を注いでいただくことでいかなる成長を遂げるのか……乞うご期待！！私たちも楽しみにしています。

## 100人乗っても大丈夫！！『底の抜けない頑丈な器』です。

空っぽの器友の会 副会長・目白カフェ代表 森尚子

『空っぽの器』友の会が始まります。名前のお通り まだ何も無い 何も入っていない器だけの状態です。でも 安心して下さい。決して 底が抜けない頑丈な器を用意しました。これから 皆様に満たしていただきたいと思えます。その事により良い出会いが生まれ 素敵な時間が動き出せばと思っています。無邪気に一生懸命 愛と希望と夢を乗せて友の会が動き出しました。宜しく願い致します。応援して下さい。

顧問：樋野興夫



『利他性と鈍感性』  
順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授  
一般社団法人「がん哲学外来」理事長 樋野興夫

この度、『空っぽの器』友の会が発足された。私は、顧問とのことである。新渡戸稲造は、第一高等学校の校長の時、「学生は校長室は敷居が高いので、相談に来づらい」と、学校の近隣に、木曜日の午後、場所を設定し、そこには、第一高等学校の学生であった矢内原忠雄も参加していたと、若き日に聞いたものである。「教育とは『空っぽの器』の場の設定」でもあろう。「人生とは『器に水が入っても穴が開かないよう頑丈』にしていく訓練」であり、「良い出会いとは、『空っぽの器に水を入れてもらう』こと」であろう。しかし、現代、自分で水を入れている人が、多いのではなからうか？それでは、もったいない。器が空っぽなら、誰かが水を入れてくれ、心が満たされることであろう。「無邪気に喜んで、底が抜けない空っぽの器の提示」の時代的到達である。「『空っぽの器』友の会」の発足は、歴史的快挙である。まさに、『利他性と鈍感性』の学びである。

## 『空っぽの器』に音楽を注ぐことで、大きく、今、羽ばたこうとしています！

空っぽの器友の会 編集長・目白カフェ オルガン演奏者 青柳志保

私の頭の中が偽の空っぽの器であることは昔から変わらない。埋めても埋めてもどこからか全て流れ出してしまふ。立派な頑丈な底もなく、空っぽでいられる生き様もなく、ただ何かを入れては下から漏れ出すだけの繰り返しであった。

ただ音楽だけが器の中に数滴残ることができることに気づいた。音楽は空っぽの器に少しの足跡を残すのである。それ意外は私には何も残らないのだと、いくら本を読んでも映画を見ても流れてしまうのだと、そう感じていた。

そんな折に樋野先生との出会いがあった。今年の春のことである。先生から送られた初めての言葉は「利他性と鈍感性」であった。

それは何度も何度も私を後押しし、私を変える一言となった。今新しい世界が見えてきている。それが空っぽの器の底を支えていると気づいたのは昨日のことである。



編集者：『空っぽの器友の会』会長・シャチホコ記念代表 彦田かな子 shachihokokinen@yahoo.co.jp

一般社団法人がん哲学外来ホームページ <http://www.gantetsugaku.org/>